

[概要] 2015年は約10年ぶりに国内・鳥取県内で流行が目立ち、智頭町内でも患者が出始めています。アデノウイルス8型、同19・37・4型などによる眼の感染症で、感染力(伝染性)が強いです。以前はプールでうつる夏季の病気でしたが、近年は一年中です。学校感染症の一つで、感染の恐れがなくなるまで登校禁止となります。保育園児も同様に登園禁止になります。成人が発症した際も、原則的に出勤停止となります。

[症状] 約1～2週間の潜伏期の後、結膜の浮腫や充血、眼瞼浮腫（まぶたのハレ）を呈し、涙が増え（催涙）や眼脂（目ヤニ）を伴います。耳の前のグリ（リンパ節腫脹）と痛み（圧痛）が出る場合があります。発病後2～3週間で治癒します。

結膜と角膜の炎症で、角結膜炎です。 [付：流行性角結膜炎(epidemic keratoconjunctivitis; EKC)]

結膜炎	角膜炎
<p>片目発症後、4～5日後に反対側の目も発症するが多い （片目発症の場合は、病初期の診断が難しい） 白目が充血し、眼脂・目やにが出る（目が開かないくらいになることも） 涙目になったり、まぶたがはれることもある 見えにくく感じるが一時的にあり得る 症状が重くなると、耳前リンパ節が腫れて触ると痛みを伴うこともある 症状が強い人の場合は、まぶたの裏の結膜に白い膜（偽膜）ができ、眼球の結膜に癒着をおこすことがあり得る 症状が治まるまで約2～3週間かかることがある</p>	<p>透明な角膜に点状の小さな混濁が生じ、眼痛を感じることもある 眩しさやかすみを感じることもある 視力障害を感じることもある 黒目の表面がすりむけて、角膜糜爛（びらん）を来して、目がゴロゴロし、眼痛がひどくなることもある 症状が数か月～1年に及ぶこともあり得る</p>

[診断・治療] 一般に、結膜炎の原因としてはウイルスの他、アレルギー、細菌などもあり、初期段階での診断は難しいです。

涙や目ヤニでのアデノウイルス迅速検査が陰性でも否定はできません。診断に数日間、経過をみることもあります。その期間の感染対策は大切です。アデノウイルスの治療薬はありません。充血・炎症が強い場合は、眼科を受診し、ステロイドホルモン点眼や、細菌の混合感染の際は、抗菌剤の点眼をします。眼科診断になりますが、強度の角膜炎では、視力低下の危険があり得ます。免疫力が低い新生児や、手で目をこすり易い乳幼児は、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こす例があり得るので、留意が必要です。

[日常生活上の留意点] 主に接触感染です。患者の涙・目ヤニや、それらを拭いたティッシュやハンカチ・タオル類を手で触れると、手にウイルスが付着します。

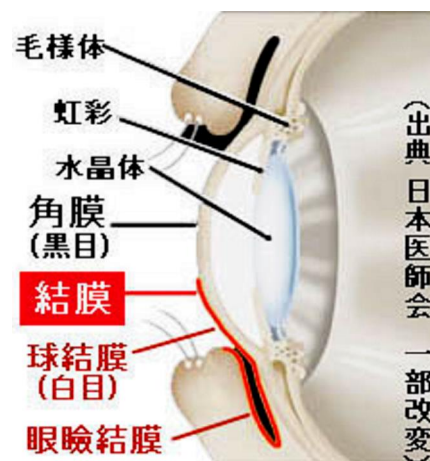
ハンカチ・タオル類の共有は厳禁です。1) 水道水で手指を洗わず、ないし、速乾性アルコール消毒薬を用いずに、2) 他の人や物に触れると、3) ウイルスがついた手で目をこすることで感染します。

アデノウイルスは、生活環境の中で（水・お風呂の中でも）感染性を失いません。油断禁物です。

クラス・職場に患者発生がある場合、地域内流行期には、（休憩時間毎など）こまめに手指を洗いましょう。

屋外で煙・ほこりで汚れた際などに、手で目をこするのは禁物です。顔が汚染した場合もこまめに洗います。

症状のある方の入浴は最後にし、残り湯は捨てます。速乾性のアルコール消毒薬は有効です。



付) 感染症法に基づく医師届出に必要な臨床症状（下記の2つ以上：下記ア・イは眼科医の診断です。）

- ア. 重症な急性濾胞性結膜炎
- イ. 角膜点状上皮混濁
- ウ. 耳前リンパ節腫脹・圧痛

(5) 流行性角結膜炎



ウイルス性の角膜炎と結膜炎が合併する眼の感染症。学校ではプール施設内で感染することが多い。人から人への感染も多く見られる。	
病原体	アデノウイルス
潜伏期間	2～14日
感染経路	飛沫感染、接触感染。プール水、手指、タオルなどを介して感染する。 ウイルス排出は初期の数日が最も多いが、その後、便からは数週間、長い場合は数か月にわたってウイルスの排出が続くこともある。
症状・予後	急性結膜炎の症状で、結膜充血、まぶたの腫脹、異物感、流涙、めやに、耳前リンパ節腫脹などがある。角膜炎後の角膜混濁により視力障害を残す可能性がある。有効な治療薬はなく、対症療法が行われる。診断は臨床症状によりなされるが、アデノウイルス抗原の迅速診断キットがある。
予防法・ワクチン	接触感染の予防のため、手洗い、タオルなどの共用はしない。ワクチンはない。
登校(園)の基準	眼の症状が軽減してからも感染力の残る場合があり、医師において感染のおそれがないと認められるまで出席停止とする。なお、このウイルスは便中に1か月程度排出されることもまれではないので、登校(園)を再開しても、手洗いを励行する。

出典：文部科学省（上）、 国立感染症情報センター（下）

